

平成23年度学校経営報告（定時制）

1 今年度の取組と自己評価

（1）教育活動の取組と自己評価（達成度100点満点）

①学習指導への満足（80点）

「わかる授業」「生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす授業」を全教科で目指し、学習指導要領、年間授業計画、週ごとの指導計画などに基づき意図的・計画的に授業を行い、学習指導の充実を図った。学力差の大きい国語、数学、英語の3教科については、習熟度別授業を実施し、生徒の学力に応じた効果的な学習指導を行った。また、生徒による授業評価の結果を生かした校内研修を実施し、指導内容や指導方法を工夫し、「分かる授業」の実現を図った。また、漢字能力検定や計算技術検定、色彩検定、グラフィックデザイン検定など各科において資格取得を目指した学習指導が継続的に行われ、大きな成果を収めた。

②進路指導への満足（80点）

キャリア教育の全体計画に基づき、進路指導部、各科並びに学級担任が連携し、生徒一人ひとりの進路実現を目指し、計画的できめ細かな進路指導を行った。進路適性検査や職業別ガイダンス、インターンシップなどの進路関係行事は、生徒自らの進路を考えるきっかけとなった。進学指導においては、美術大学及び専門学校の説明会や長期休業日中の補習や補講、デッサン講習会、大手予備校と連携した土曜講習などを行った。今年度は、不況の影響で求人数が大きく減少したが、ハローワークと連携しながら就職指導を行い、おおむね生徒の就職希望を実現できた。説明会や講習会に参加した生徒には好評で、成果があった。

③生活指導への満足（70点）

学校生活や社会生活におけるルールやマナーを守ることの大切さをホームルーム活動や部活動、全校集会や学校行事などあらゆる場で粘り強く指導した。課題を抱える生徒が多く、外部機関やスクールカウンセラーとの連携が必要だった。また、ホームルーム担任と教科担任との連絡会を開催し、様々な課題を抱える生徒の情報を教員全員で共有できた。セーフティ教室や学年別の講演会を実施し、生徒の社会貢献の精神や、安全な生活への自覚を高めた。

④特別活動への満足（80点）

学校行事においては、本校最大の学校行事であり全日制と共同で開催する「工芸祭」には、全生徒が熱心に準備を行い、作品制作に取り組んだ。球技大会や体育祭では、生徒が積極的に取り組み、学校生活への満足度を高めることができた。部活動においては、「部活動推進指定校」となり、運動部10部、文化部11部が、短い活動時間を効率よく活用し、熱心に活動を行い都大会、全国大会出場者候補選出など一定の成果を収めた。

⑤地域や企業との連携（70点）

ハローワークや関係企業と連携を深めながら、インターンシップ（就業体験）を実施した。本年度は、更に生徒の希望職種企業を開拓し、自動車部品製造、ペットショップ、建物内装業、介護施設等に生徒を参加させ、生徒の職業意識を高めることができた。

⑥特色ある教育活動（70点）

都民対象の公開講座「ピンホールカメラの製作」を実施し、本校定時制課程さらには都立高等学校全体の教育活動への理解を深めることができた。学校運営連絡協議会アンケートにおいては、「本校は特色ある学校」とする回答が9割を越えた。

(2) 重点目標への取組と自己評価 (達成度100点満点)

①学習指導 (80点)

- ・放課後や土曜日、長期休業日中に補習・補講を実施し、補充的または発展的な学習を希望する生徒の学習ニーズに応えることができた。
- ・資格取得のための補習・補講の充実を図り、漢字能力検定、計算技術検定、グラフィックデザイン検定、色彩能力検定等でのべ約100名の合格者を出すことができた。

②進路指導 (80点)

- ・進路に関する情報を提供し、進路への関心を高めるために進路ニュースを4回発行した。
- ・進路に関する生徒向けの説明会を4回実施した。進路決定先は、就職17%(前年16%)、大学進学率16%(前年20%)、専修学校等34%(前年29%)職業能力開発センター9%(前年4%)となり、就職者及び大学進学率はほぼ例年並みであったが、専門学校及び職業能力開発センターへの進学増加が特徴として挙げられる。長引く経済不況の影響があり、今後も早期からの就職指導、進学指導を始め、計画的かつ段階的に進路指導を推進していく必要がある。
- ・進路未決定者は24%(前年29%)と昨年より減少している。今後も計画的段階的な進路指導により進路未決定者の減少に努力していく。
- ・インターンシップには12名(前年9名)が参加し、企業と連携した進路指導に成功した。この企画に参加した生徒の職業意識の高まりには目を見張るものがあり、その後の学習にも一層意欲的に取り組んでいる。
- ・土曜講習には、予備校講師による進学に向けた集中講座が行われ、前期5名、後期11名が参加した。

③生徒指導 (70点)

- ・マナー指導や遅刻指導など日々の指導をホームルームや全体集会などで繰り返し行なった。全体集会は4回実施した。
- ・学校生活においてルールやマナーを守るよう指導するため、校舎内外を教員が手分けして巡回し、増加傾向の特別指導件数を抑止した。

④特別活動 (70点)

- ・展覧会や科ごとに実施する現場見学会、校外授業等により、生徒の課題への意欲を高めながら、工芸祭等、特色ある行事を成功させた。
- ・定時制としては唯一、部活動指導推進指定校に指定され、スポーツ、部活動の活性化を図った。生徒の部活動加入率も向上した。
- ・バドミントン部や剣道部では都大会で入賞し、全国大会選手候補に選考された。美術部や写真部は定通芸術祭で入賞を果たした。本年度は演劇部も定通芸術祭に出場し、活動の場を広げた。

⑤健康づくり (80点)

- ・特別支援コーディネーターを中心に組織された「サポートチーム」は、精神的に課題のある生徒の指導の在り方について、養護教諭や担任などそして外部関係機関と連携をとりながら指導体制を確立できた。精神科医師による事例検討会を全日制・定時制共催で行った。
- ・東部精神保健福祉センターとの連携事業に取り組み、精神科医師、臨床心理士、社会的支援等の相談員というチームサポートを受け、事例検討会等を実施した。
- ・ホームルーム担任と教科担任との連絡会を1学期に開催した。
- ・スクールカウンセラーの配置により発達障害のある生徒や精神面で困難な生徒のサポー

トが強化できた。スクールカウンセラーと、教員の連絡会を学期に一回行った。

⑥募集・広報活動（80点）

- ・授業公開・学校説明会を3回実施し、中学生とその保護者約200名が来校した。ホームページの更新を頻繁に行い、宣伝効果が見られた。また、12月には授業公開や入試情報を交換便利用により都内23区内に送付した。
- ・教員による中学校訪問は、約110校と昨年度に比べて1.5倍増で、そのことが応募人数の増加にも結びついた。
- ・入学者選抜第一次、第二次の応募者の目標を定員の120名としたが、最終入学者は昨年度の105名に対して、今年度は115名となった。今後も広報活動、募集対策を強化していく。

⑦学校運営（70点）

- ・生徒による授業評価は2回実施し、その結果に基づく校内研修を2回行い授業改善に役立てた。
- ・学校運営連絡協議会の学校評価アンケートを地域住民に工芸祭当日に行った。生徒・保護者・教員・地域住民へのアンケートの回収率は生徒76%、保護者12%（43名）、教員29名、地域住民496名（昨年156名）となっている。保護者の回収率の改善が課題である。

2 次年度以降の課題と対策

- ①学習指導では、生徒一人一人の興味関心を高め、わかりやすい授業を目指し、生徒に基礎基本を身につけさせる。
 - ・生徒による授業評価の活用、教員の校内研修の充実、教員相互の授業公開の拡大
 - ・習熟度別授業の実施による基礎的な内容と発展的な内容の定着
- ②進路指導では、進路未決定者を減少させ、第一希望の進路実現を目指す。
 - ・放課後および長期休業日中の補習や補講を充実させる。
 - ・キャリア教育全体計画に基づき、計画的な進路指導を行う。
 - ・検定試験など資格取得を目指した指導を充実させる。
- ③生活指導では、集団における規範意識と社会性の育成を図る。
 - ・部活動のさらなる振興ときめ細かな生徒指導
- ④生徒募集・広報活動をさらに充実させ、中学校訪問や出前授業などにより本校の特色を広く都民や中学生とその保護者にアピールする。